

主の回復における唯一の働き

(木曜日——午前の第一の部)

メッセージ 1

神の働きを知る——主の回復における唯一の働き

聖書：マタイ 16:18. ガラテヤ 4:19. II コリント 3:8. エペソ 3:16-21. 4:12, 16

- I. わたしたちは神の働き、すなわち主の回復における唯一の働きを知る必要があります——エペソ 4:12：
 - A. 宇宙での、あらゆる時代における神の働きは、原則において完全に同じです。彼があらゆる時代に行なっている働きは、同じ目標のためです。それは彼ご自身を人の中へと造り込んで、彼ご自身の永遠の団体的な表現とすることです——ガラテヤ 4:19. 啓 21:10-11。
 - B. 各時代にわたって、神が行なおうと願っているただ一つの働きがあります。この唯一の働きは、彼ご自身を人の中へと造り込んで、人を神・人、すなわち神でありしかも人である者とすることです——ヨハネ 1:12-13. 3:15. II ペテロ 1:4。
 - C. 神の働きの性質は、あらゆる時代において同じです。神の働きの様式、度量、計画は、決して変わったことはありません。彼はご自身をわたしたちの中へと造り込むことを願っています——エペソ 3:16-21。
- II. 宇宙での、すべての時代と世代を通しての神の唯一の働きは、キリストにあってご自身を彼の選ばれた人の中へと造り込んで、ご自身を彼らと一にし、彼らを彼らと一にすることです——ガラテヤ 1:15-16. 2:20. 4:19. エペソ 3:17 前半：
 - A. 神の定められた御旨は、ご自身をわたしたちの中へと造り込んで、ご自身をわたしたちの内なる要素とすることです：
 1. この定められた御旨は宇宙の中心であり、この定められた御旨から離れて、クリスチャン生活に意義はありません——啓 4:11。
 2. 正しい優先順位は、わたしたちが神のために働くことではなく、まず神がご自身をわたしたちの中へと造り込むことです——エペソ 2:10. ペリピ 2:13。
 - B. 聖書の支配するビジョンとは、三一の神がご自身を彼の選ばれ贖われた人の中へと造り込んで、彼らの命また命の供給となり、彼らの全存在を神聖な三一で浸透させることです——マタイ 28:19. II コリント 13:14. エペソ 4:4-6. 啓 1:4-5. 22:1-2 前半：
 1. 神聖な啓示の核とは、神がわたしたちを創造し贖った目的が、神がご自身をわたしたちの中へと造り込んで、わたしたちの命、命の供給、すべてとすることであるということです——創 1:26. 2:7. ローマ 8:10 後半, 6, 11。
 2. 全聖書はこの原則にしたがって書かれました。それは、三一の神が彼の贖われた人の中へと造り込まれて、彼らの享受、飲み物、命と光の源泉となるということです——詩 36:8-9：
 - a. わたしたちはこの原則で構成される必要があります。この原則はわたしたち

のビジョンとならなければなりません——箴 29:18 前半。

- b. これは、わたしたちの内側で内在的な原則となって、わたしたちの語り、教え、宣べ伝えることをすべて管理しなければなりません——使徒 26:19。

III. わたしたちの働きの内在的な要素は、建造し建造された神を人の中へと供給し、キリストのからだを建造することです——マタイ 16:18. エペソ 3:17 前半. 4:4, 12, 16:

- A. わたしたちの働きの目標は、建造し建造された神を人の中へと供給することであるべきです——マタイ 16:18. エペソ 2:22. 3:17 前半。
- B. わたしたちは、主がわたしたちに教えて、このように働かせてくださるようにと、祈る必要があります。すなわち、手順を経て究極的に完成された三一の神を人の中へと供給させてくださるようにと、祈る必要があります——II コリント 13:14. I コリント 3:9-10, 12。
- C. わたしたちが神の定められた道の四段階、すなわち生み、養い、成就し、建造することを力を尽くして実行するとき、わたしたちの働きは、手順を経て究極的に完成された三一の神に基づいていなければなりません。彼はご自身を彼の贖われた人の中へと建造し、彼らを彼の中へと建造しつつあります——使徒 8:4. エペソ 4:12. I コリント 14:1, 3-4, 12, 31。
- D. わたしたちの働きのあらゆる面（福音を宣べ伝えること、信者たちを養うこと、召会を設立すること、聖徒たちを成就すること）において、内在的な要素は、建造し建造された神を人の中へと供給することではなければなりません——マタイ 16:18, 24:45. エペソ 3:17 前半. 4:12:
 - 1. 神がご自身を彼の選ばれた人の中へと造り込むのを願っていると、わたしたちが認識するなら、建造し建造された神を人の中へと供給して、三一の神がご自身を彼らの存在の中へと建造することが、わたしたちの働きの目標となります——3:17 前半:
 - a. 主の回復の中で、わたしたちの働きの極めて重要な事柄は、建造し建造された神を供給することです——マタイ 16:18. エペソ 2:21-22. 3:17 前半。
 - b. わたしたちが礼拝し人に供給する神は、手順を経て究極的に完成された三一の神であり、キリストの中に具体化され、その霊として実際化されています——コロサイ 2:9. ヨハネ 7:39. ガラテヤ 3:14。
 - c. 神はご自身を彼の贖われた人の中へと建造して、家を生み出しつつあります。この家は召会、キリストのからだ、三一の神の具体化であり、その霊として実際化されたキリストの拡大です——ヨハネ 14:2, 10, 16-17, 20, 23。
 - d. そのような啓示は、わたしたちが神と神の建造を理解することを支配する原則となるべきです——箴 29:18 前半. 使徒 26:19。
 - 2. わたしたちは、主のために行なっている働きを再び考えて、三一の神の具体化としてのキリストがどれほど多く、わたしたちが主にもたらした人の中へと造り込まれたかを問うべきです——ガラテヤ 4:19. コロサイ 1:28。
 - 3. わたしたちは一つの事を実行する必要があります。それは、手順を経て究極的

に完成された三一の神を人の中へと供給し、三一の神にご自身を彼らの内なる人の中へと建造していただくことです。わたしたちは、主がわたしたちに教えて、このように働かせてくださるようと、祈る必要があります——Ⅱコリント 13:14. Ⅰコリント 3:9-10, 12。

4. わたしたちが手順を経て究極的に完成された三一の神をもって召会を建造するとき、実はわたしたちが建造しているのではありません。そうではなく、神がわたしたちを通して建造し、わたしたちを手段として用いて、ご自身を人の中へと分与し伝達しているのです——使徒 9:15. エペソ 3:8-9。

IV. 主の回復における唯一の働きは、その霊の務めです——Ⅱコリント 3:8 :

- A. 新契約の奉仕者は霊に属しています。しかしながら、彼らの働きは単に霊に属するだけのものではありません。それはその霊の務めなのです——6, 8 節. 4:1。
- B. わたしたちは、自分が行なっている働きが単に霊的な働きであると言うべきではありません。むしろ、主の回復における唯一の働きは、その霊です——3:8 :
 1. 主イエスが語った言葉は霊でした (ヨハネ 6:63)。この原則によれば、わたしたちはまた、主がわたしたちに与えた働きは霊であると言うことができます。
 2. 新契約の働き、務めは、その霊の務めであって、単に霊的な務めではありません——Ⅱコリント 3:8。
 3. わたしたちがその霊で満たされた人となる時、わたしたちが語る言葉は霊であり、わたしたちが行なう働きも霊です——使徒 2:4. エペソ 5:18。

V. 主の回復にはただ一つの働き、すなわち一つからだの働きがあるだけです——4:12 :

- A. 主の回復における唯一の働きは、彼のエコノミーの働き、すなわちキリストのからだの働きです——Ⅰコリント 15:58. 16:10 :
 1. わたしたちはみなからだを見て、からだの働きを行なわなければなりません——エペソ 1:22-23. 2:16. 4:4, 15-16。
 2. からだのビジョンが、わたしたちの支配するビジョンとならなければなりません。わたしたちはこのビジョンの下で、主の回復の働きを行なわなければなりません——箴 29:18 前半。
 3. わたしたちがからだの一を見るなら、働きの一も見て、個人の働きから解放され、からだの働きへと入ります——エペソ 4:4, 12. Ⅰコリント 12:12-13. 15:58. 16:10。
- B. すべての同労者はキリストのからだのために、宇宙的に同じ一つの働きを行なうべきです——ローマ 12:4-5. Ⅰコリント 12:12-13, 24-27. エペソ 4:12, 16 :
 1. わたしたちが今日行なっていることは、わたしたち個人の働きではなく、各世代を通しての神のエコノミー、すなわち、キリストのからだの建造です——Ⅰテモテ 1:4. エペソ 3:9. 4:12。
 2. わたしたちが自分の地方で、あるいは宇宙的に他の国のために行なうことは何であれ、わたしたちがキリストのからだを建造しているという認識をもってなされるべきです——16 節。

務めからの抜粋：

神の働きの外側の現れと内側の原則

この宇宙において、またあらゆる時代において、神は彼の目的にしたがって働かれます。神の働きはあらゆる時代において、外側では異なっているかのようです。実は、それは内側では原則において完全に同じです。旧約時代と新約時代は完全に異なっており、二つの時代における神の働きは異なっています。しかしながら、内面的に神は両方の時代において同じ神です。これは、わたしが昨日着た服と今日着ている服は異なっているけれども、服を着ているわたしは同じであるという事実にととえてよいでしょう。あらゆる時代において、神は同じ神であり、彼の働きが外側で現れる方法は異なっていますが、神があらゆる時代に行なっている働きは、同じ目標のためです。ですから、神を追い求める者たちは彼の道を歩むとき、彼の働きの外側の現れにあまりに多くの注意を払うべきではありません。むしろ、彼らは内側で神の道と神ご自身を知ることに集中すべきです。あらゆる時代に神が働く道が何であるかを言うことは難しく、神が人の中で、人を通して働く外側の現れが何であるかを言うことはさらに難しいのです。これらの事柄は完全に神の御手によって支配されており、人によって決定されることはできません。

例えば、マルチン・ルターによって行なわれた宗教改革の時から経過した四百年で、神は多くの人々を経過してこられました。しかしながら、驚くことに、神が経過し、働きかけた人たちには異なる外側の現れがありました。ジョージ・ミューラーにはある種の現れがあり、D・L・ムーディーには別の種類の現れがあり、さらにチャールズ・スポルジョンにはまた別の種類の現れがありました。あらゆる人たちにおける神の働きの外側の現れが異なっているだけでなく、あらゆる時代における彼の働きの外側の現れも異なっていました。ですから、わたしたちはある事柄を行なって神の願いに触れなければならないと、主張すべきではありません。例えば、中国で主はジョン・ソン兄弟をおもに福音のために用いられました。彼における神の働きは、特定の外観を伴った特定の方法において現されました。ある人たちは、彼の働きが実を結ぶものであると感じたので、彼の方法を模倣し、真似ようと思いました。しかしながら、結局、その方法は彼らには効果がありませんでした。わたしたちはみな、ある外観を持っていますが、わたしたちのだれも自分が生む子供たちがどのようなものであるかを保証することはできません。なぜなら、彼らの外観はわたしたちの支配の下にないからです。わたしたちが生む子供たちは、銅像、石の彫刻、あるいはろう人形ではありません。人が作った銅像、石の彫刻、ろう人形のような物だけが、同じであることができます。わたしたちが生む子供たちは命を持ち、生きています。

各時代にわたる神の働きを見る二つの方法があります。一見して、神の働きの外側の現れ、外側の形はあらゆる時代で完全に異なっています。しかしながら、内面的に、神の働きの原則、方法、内容、目的は完全に一つであり同じです。神は各時代にわたってキリストの中で、使徒たちの中で、霊的な聖徒たちの中で働かれました。そ

して彼はわたしたちの中でも働いておられます。神の働きの目標と方向は完全に同じです。これは、わたしたちが中国では中国服を、日本では着物を、ヨーロッパでは洋服を着ても、わたしたち人は外側で何を着ようと変わらないという事実と似ています。わたしたちは台北にいても、日本にいても、あるいはヨーロッパにいても、わたしたちです。同じように、神がヨブ、ダビデ、ヨハネ、マルチン・ルター、ジョージ・ミューラーの中で行なわれたことは外側では異なっていますが、内側では同じです。各時代にわたって、神は決して彼の働きを変えたことはありません。

旧約時代でも新約時代でも、中国でも外国でも、現在でも将来でも、神の働きの外側の現れはさまざまであるかもしれませんが、内側にはただ一つの内容があるだけです。わたしたちはそのような啓示を聖書から受けたので、外側の形において他の人を模倣する願いはなく、諸召会が外側の形において互いに模倣することも望みません。神の働きは台北に在る召会において一つの方法で現され、台中に在る召会において別の方法で現され、高雄に在る召会においてはさらに別の方法で現されます。これは外側の現れを指しています。しかしながら、神が行なっておられる働きは内在的に一です。高雄における神の働きは台北における彼の働きでもあり、台湾における神の働きは東南アジアにおける彼の働きでもあるのです。

各時代にわたる神の唯一の働きは、 彼ご自身を人の中へと造り込むことである

大学生がまだ若いときに救われることは大きな祝福です。さらに、今日の諸召会の状況は、三十年前よりはるかに豊かです。三十年前に、たとえわたしたちが自分のすべてのお金を費やして霊的出版物を買ったとしても、今日わたしたちが持っている光をそれらの中に見いだすのはやはり不可能であったでしょう。今やわたしたちはこれらの真理の光をあなたがたに伝えたので、神が各時代にわたって行なうことを願っておられるただ一つの働きしかないことを、あなたがたははっきり見なければなりません。神が各時代にわたって行なってこられた唯一の働きは、彼ご自身を人の中へと造り込むことです。神は人を神・人、すなわち神でありしかも人である者にすることを願っておられます。神・人とは、内側に神を持っている者、神の要素を持っている者です。これは、一杯の水がお茶の成分を加えた後、お茶・水になることにたとえられるでしょう。わたしたちは本来、人であるだけでしたが、今日、神がわたしたちの中へと加えられています。神はわたしたちの中へと加えられただけでなく、またわたしたちとミングリングされています。このミングリングは、わたしたちが神・人となる点に達しますが、わたしたちは神格にはあずかりません。

各時代にわたる神の働きは、ただ彼ご自身を人の中へと造り込むことでした。これが、彼がヨブ、エノク、ノア、アブラハム、イサク、ヤコブ、旧約の預言者たちの中で行なわれた働きです。各時代にわたって、神はこれらの人たちの中で別の働きを行なわれませんでした。もしダニエルの特徴を見ることなしにダニエル書を読むなら、わたしたちがその書の内容を理解するのは難しいでしょう。もしわたしたちがイザヤ

とエレミヤの特徴を知らないなら、彼らが書いた書の内容を理解するのは難しいでしょう。旧約の預言者たちによって書かれたすべての書は、有名な人の伝記のようです。もしその預言者の特徴を見ることができないなら、神がその預言者の中で行なった働きによって生み出された神の味わいを感じることも、彼が書いた聖書の箇所を理解することもできないでしょう。これが秘訣です。ですから、新約だけが、わたしたちがキリストの中にいることを啓示しているのではなく、旧約でさえ同じ原則を啓示しているのです。神が各時代にわたって行なってこられた一つの事は、彼ご自身を人の中へと造り込むことです。これが神の目標です。

霊的な事柄は外側で模倣されるのではない

神がご自身をわたしたちの中へと造り込むとき、わたしたちが現すもの、表現するものは個人によって異なります。神がご自身をジョージ・ミューラーの中へと造り込んだ時、彼を通して現されたことは孤児院を設立することでした。神がご自身をチャールズ・スポルジョンの中へと造り込んだ時、彼を通して現されたことは、福音の力強い宣べ伝えでした。それぞれの人の中での神の働きは、異なる方法で現されます。同じ神が働いているのですが、彼は異なる方法で異なる人々を通して現されます。こうして、わたしたちは霊的な事柄を模倣することはできませんが、ただ内なる原則に従うことができるだけです。外側の形を模倣することはすべて間違っています。

わたしたちが伝記や歴史を学ぶことは、歴史上の人物の外側の現れを求めて彼らを複製するためではありません。そうではなく、神が彼らの中で取った道、彼らの中で行なった働きを求めるためです。今の時代における神の働きとは彼の召会を建造することであるとわたしたちが言うとき、わたしたちの理解は十分に明確でないかもしれません。多くのクリスチャンはおそらく、今の時代に神が取ってこられた道は福音の道であり、神は福音の拡大のためであると考えられるでしょう。彼らは福音に関してとても熱心になり、人の住む全地に出て行くかもしれません。わたしたちはこれが間違っているとはあえて言いませんが、これはせいぜい外側の現れにすぎません。人が神に用いられる道は、人によって決定されません。

神が旧約でヨブに来られた時、ヨブは神に触れられ、彼の中に現れ、活動があり、それはある結果を生み出しました。神が異なる人々の中で働くことによって生み出される結果は同じではありません。わたしたちは若い兄弟姉妹に、神がこの時代に何を行なおうと計画したのかを告げることはできません。もしわたしたちが彼らに告げるなら、それはただわたしたちが神の働きの原則を知らないことを示すだけです。神がどのようにこの五年で彼の働きをすべての若い人たちの中で現されるかは、だれも知りません。しかしながら、聖書と、わたしたちの前を歩んだ聖徒たちの経験によれば、神が各時代にわたって行なってこられた一つの事があることを、わたしたちは知ります。それは彼ご自身をわたしたちの中へと造り込むことです。わたしたちが知らないのは、神がご自身をわたしたちの中へと造り込んだ後、わたしたちを通して何を

現すのかということです。

神はご自身を人の中へと造り込むことを願われる

過去二千年に、神がどのように働かれるのかにだけ注意を払ってきた人たちは、失敗し、間違いを犯すよう運命づけられてきました。新約ははっきりと、神がご自身をわたしたちの中へと造り込むことを願っておられることを示していますが、この事柄はわたしたちの天然の考えを超えています。わたしたちはただ、熱心であり、神のために働き、靈的であり、力を受けることなどだけを考えます。これは特にキリスト教の中にいる人たちにはそうです。人は救われるとすぐに、これらすべての天然の考えを持ちます。神がご自身をわたしたちの中へと造り込むという事柄は、わたしたちが夢にさえ見ることができないことです。わたしたちの内側には光も啓示もありません。たとえこの事柄がわたしたちの目の前に正しく置かれたとしても、わたしたちは内側で何の反応も持つことができないでしょう。わたしたちは岩のようであるかもしれません。その中に種を植えることも、その上にインクで書くこともできません。わたしたちには神の唯一の働きについて全く何の概念もないのです。

救われて何年にもなり、召会の中で数多くのメッセージを聞いてきた兄弟姉妹でさえ、毎回、神について考える時、神の御前で自分自身を改善することをなおも願うかもしれません。わたしたちは、内側の聖霊がわたしたちの目を開いて、改善は神がわたしたちに願っておられるものではないことを、見せてくださることを必要とします。たとえわたしたちが今日、百万倍良くなったとしても、神はこれを望んでおられません。神が願っておられるのは、彼ご自身をわたしたちの中へと造り込むことです。これが、神があらゆる時代に行なってこられたことです。

神の働きの性質は、あらゆる時代において同じです。神の働きの様式、度量、計画は、全く変わったことはありません。彼はご自身をわたしたちの中へと造り込むことを願っています。この働きの外側の形、外側の現れはあらゆる人において異なります。わたしたちがみな神と協力するなら、何が次の五年間でこの地上に起こるかは、神だけが知っておられます。(神の架け橋と経路、第1章)

わたしたちの必要は、

**神がキリストにあってご自身をわたしたちの中へと造り込み、
わたしたちの命、性質、構成とすることである**

人の写真にその人の命と性質がないように、神の心の写真であるダビデには、神の命と性質がありませんでした。彼はその心が神にしたがった人でしたが、有機的に神に関するものを何も持っていませんでした。ダビデが必要としたものは、今日わたしたちが必要とするものです。わたしたちは、神がキリストにあってご自身を、わたしたちの人性の中へと建造してくださることを必要とします。これは、神がキリストにあってご自身をわたしたちの中へと造り込み、わたしたちの命、性質、構成とするのを、わたしたちが必要とすることを意味します。その結果、わたしたちは、神の心に

かなった人であるだけでなく、神格においてではなく命と性質において神です。わたしたちは今日、外側ではダビデほど高くありませんが、神の命、性質、構成を持っていると宣言することができます。

これを達成するために、神はキリストの中で人と成り、いくつかの過程を経られました。それは、この人が神聖なものと明示されることができるためです。復活の中で、彼は神の長子と明示されました。復活の中で、復活を通して、神の長子であるキリストは、命を与える霊と成られました。彼は今わたしたちの中へと入って、ご自身を命としてわたしたちの存在の中へと分け与え、分与し、わたしたちの内なる構成となり、わたしたちを彼と同じ神・人とします。彼は人と成られた神であり、わたしたちは、神格においてではなく命と性質において神となる人です。

神の願いは、キリストにあってご自身をわたしたちの中へと建造し、 相互の住まいを持つことである

多くのクリスチャンはなおも、神の心にながって振る舞い、生活し、存在しようとしているだけですが、神がキリストにあってご自身をわたしたちの存在の中へと建造することを願っておられるという概念を持っていません。彼がわたしたちの中へと建造しつつあるのは彼の住まいであり、それはまたわたしたちの住まいでもあります。ですから、それは相互の住まいとなります。新エルサレムはこの相互の住まいです。一方で、新エルサレムは神の住まいであり、もう一方では、わたしたちの永遠の住まいです(啓 21:3、22)。永遠において新エルサレムは、ヨハネによる福音書第 15 章 4 節の「わたしの中に住んでいなさい。そうすれば、わたしもあなたがたの中に住む」という主の短い言葉の成就となります。

エペソ人への手紙第 3 章 17 節は、キリストは今わたしたちの内側にいて、ご自身をわたしたちの中へと建造し、この相互の住まいを生み出す働きを行なっておられると告げています。わたしたちはしばしば、キリストはわたしたちの中に生きて働いておられると言います。今やわたしたちはこの質問をする必要があります。キリストはわたしたちの中で働くことによって、何を完成したいのでしょうか？ その答えは、キリストはわたしたちの中で働いて、ご自身をわたしたちの中へと建造することによって、神の住居を建造しておられるということです。

ダビデは神に香柏の家を建てることを願いましたが、神はキリストにあってご自身をダビデの中へと建造することを願われました。神がダビデの中へと建造しようとしたのは、神の家とダビデの家の両方です。この相互の住まいはヨハネによる福音書第 14 章 23 節でも明らかにされています、「だれでもわたしを愛する者……わたしの父は彼を愛され、わたしたちは彼の所へ行って、彼と共に住まいを造る」。この住まいは三一の神のためだけでなく、わたしたちのためでもあります。神がわたしたちの中に建造するものは、神の住居とわたしたちの住居の両方です。

神が住まいを持たれるのは、わたしたちの行ないや働きによるのではなく、彼の建造によることを、わたしたちは認識する必要があります。キリストが召会を建てるの

は(マタイ 16:18)、わたしたちの霊の中へと入って来て、ご自身をわたしたちの霊からわたしたちの思い、感情、意志へと拡大して、わたしたちの魂全体を占有することによります。この召会は彼の住居またわたしたちの住居となります。これが、わたしたちが必要とするものであり、わたしたちの負担はこの一つの事を強調することです。

三一の神がわたしたちの内在的な構成となる

わたしたちは神のために何も建造する必要はありません。そうではなく、神がキリストにあってご自身を、命、性質、本質として、わたしたちの中へと建造する必要があります。最終的に、三一の神はわたしたちの内在的な構成となります。わたしたちは三一の神で構成されるでしょう。それはダビデの子孫、また神の御子となります。すなわち神聖なものと人性のものであり、相互の住まいのために、神の必要とわたしたちの必要を満たします。新エルサレムはこの相互の住まいの究極的完成であり、わたしたちはみなそこにいるでしょう。(サムエル記上・下ライフスタディ、メッセージ 25)

建造する神また建造された神を供給する

今日の回復におけるわたしたちの働きは、神を人に供給することです。そうです、わたしたちは罪人を救い、聖徒たちを養い成就する必要があります。しかしながら、極めて重要な事柄は、わたしたちが神を人に供給することです。わたしたちが供給する神は、建造する神だけではありません。彼はまた建造された神でもあります。もしこのように神を供給しないなら、わたしたちの働きは木、草、刈り株となるでしょう(1コリント 3:12)。

わたしはあなたに、主のために行なっている働きを再考慮するように求めます。おそらく、あなたはある地域を開拓し、多くの人を神にもたらしたでしょう。しかし、わたしはこの質問をします。三一の神の具体化としてのキリストがどれほど多く、あなたが神にもたらした人の中へと造り込まれたのでしょうか？ わたしたちが誠実で純粹であるなら、へりくだって、三一の神が、神にもたらした人の中へとあまり造り込まれてこなかったと告白するでしょう。ですから、わたしたちは一つの事を実行する必要があります。それは、手順を経た三一の神を人の中へと供給して、神がご自身を彼らの内なる人の中へと建造することです。わたしたちの働きのあらゆる面(福音を宣べ伝えること、信者たちを養うこと、聖徒たちを成就すること)で、内在的な要素は、わたしたちが、建造する神また建造された神を、人に供給することでなければなりません。わたしはあなたに、このように働くよう主が教えてくださるよう祈ることを促します。

手順を経た三一の神はご自身を、彼の贖われた人の中へと建造する

手順を経た三一の神は、キリストの中に具体化され、究極的に完成された霊として

実際化されます。これが、わたしたちが礼拝し、人に宣べ伝え、供給する神です。今日、彼はご自身を、彼の贖われた人の中へと建造して、要素としての彼ご自身をもって、また贖われ引き上げられた人性からのものをもって、家を生み出しておられます。この家は召会、キリストのからだです。この家は、キリストの拡大、拡張であり、その霊として実際化された三一の神の具体化です。わたしたちが生み、養い、成就し、建造するという神の定められた道の四つの段階を実行するとき、わたしたちの働きは、手順を経た三一の神に基づいていなければなりません。彼はご自身を、彼の選ばれた人の中へと建造しておられます。(サムエル記上・下ライフスタディ、メッセージ 30)